

令和元年度秋田大学研究者海外派遣事業 成果報告書

2021年 4月 2日

所属・職名：教育文化学部・准教授

氏名：瀬尾 知子

派遣先機関名： ジョージア大学 (国名：アメリカ合衆国)

派遣期間： 2019年9月15日～2020年3月12日

研究課題・目的： 幼児期の食育と社会情動的スキルの発達

～日本とアメリカの子どもの食事場面の比較研究～

研究成果 (列記願います)

・論文

瀬尾知子, 保育者の意図と子どもの社会情動的スキルの関連～日米の園での食事場面の比較研究～, チャイルドサイエンス (投稿予定)

・学会発表

瀬尾知子 (2021) 日本の子どもたちが園での食事場で学んでいること～保育者の食べさせるという行為に着目して～, 日本子ども学会 (発表予定)

・その他

2020年教育カウンセリング・オンライン研修会において、「アメリカと日本の幼児教育の違いについて私が感じたこと」のテーマで発表 (2020年11月21日)

秋田県教育カウンセラー協会機関誌において、「アメリカジョージア大学・在外研究滞在記」の掲載, 第28号 (2020年12月12日)

秋田大学教育文化学部・教育学研究科情報誌において、「ジョージア大学での在外研究を終えて」の掲載, No. 27 (2020年6月1日)

教育活動等 (列記願います)

・本学教育文化学部の専門科目 (乳幼児保育演習Ⅲ) の授業で, 日米の幼稚園の生活 (食事場面) の事例分析として取り上げた。

海外派遣事業中の研究・教育等活動が, 帰国後の研究等の活動にどのように反映されたか概括ください。

派遣期間中はジョージア大学教育学部に属し、Video-cue multivocal method の開発者の

Tobin 教授から直接研究手法を学ぶことができた。現在、ここで修得した研究手法をもとに、幼児と養育者の食事場面の関わりについて、量的検討だけでなく、質的検討へと取り組んでいる。また、幼稚園の食事場面の日米比較に取り組んだ経験をもとに、学生の研究活動に反映させており、本年度、本コースにて卒業研究にて異文化理解や海外との比較研究を希望する学生が現れてきている。

帰国後、ジョージア大学 McPhaul Center の 3.4 歳児の園での食事場面の観察調査とクラス担任保育者、園長、ジョージ大学の幼児教育研究者にインタビュー調査を行ったのと同様の手続きを日本でも実施することを予定していた。しかしコロナ禍にあり、保育所を訪問し調査をすることが難しい状況にあるため、日本でのデータ収集と分析が完了していない。今後の状況をみながら早急に日本での調査を完了し、広く研究成果を発信していきたい。

□帰国後の派遣先との共同研究等の協力関係（今後の見込みも含む）について概括ください。

現在も、受け入れ先のジョージア大学、Tobin 教授と連絡をとりあい、在外研究中から実施している研究の分析を進めている。今後は、研究成果をまとめ、Tobin 教授と共に、学術論文への投稿を予定している。また Tobin 教授はじめ、ジョージア大学でつながりができた研究者と共に、共同研究を行い、外部資金の獲得に向けて応募したいと考えている。

※報告書は、高等教育グローバルセンター刊行物（Web サイト含む）に公開（次ページからの評価は除く）を予定しておりますので、電子データをご提出ください。